

学工業等実には極度に逼迫を呈してあり、トラクター工場は、五ヶ年計画最初の年には、年五万台を製作してゐるに過ぎなかつたが、五ヶ年計画によつて、工場設備が増大され、今では年に二十万台を製作し、電気事業は、世界で有数のドニエプル発電所(三二万キロワット)と九州中の電力総量より割と多いの外、十ヶ年計画以上の発電所が十ヶ年所から、二九三八年には、電力の総量、百八十七万五千キロワットであつたが、二九三三年には、五百五十万キロワットに増加し、石炭の産出は世界第三位、鉄、石油は、世界第二位を占めてゐる。

農業は最初、富農の反対があつたにもかかわらず、四ヶ年の努力の結果、集団農場二十万ヶ所、国营農場五十ヶ所が設備され、その耕地面積はロシア全耕地面積の八割を占めるに至り、トラクター、コンバイン等の機械を使用することによつて、労力を減らし、能率をたかめることによつて、一九三三年は綿有の大豊作が傳へられ、工業に農業に萎縮らしい勢を以て発展しつつあると共に、欧州諸国との間に不侵不奪條約を締結して、平和主義を旗擧してゐる。

かくソビエトロシアの五ヶ年計画事業の発展とその成果は、資本主義諸國の模倣するところとなり、英國ではモスレーの産業復興五ヶ年計画、ソールの十ヶ年計画、米國ではピアドの五ヶ年計画、支那國民政府の産業七ヶ年計画、日本の産業五ヶ年計画等、次ぎ次ぎに真似するに至つた。

二国内情勢

以上の如く世界は、二つの異つた國が存立し、政治的危機は年一年と大銳化してゐる。昨年三月國際聯盟を脱退した日本

従つて、軍事工業

(製鉄工業) 化学工業 炭坑等は、最近好景氣の現象を呈するに至つてゐるが、失業率は尚ほ四十五万人(内各省の統計發表で余り信用は出来ぬ)に及んでゐる。

では最近の就業労働者の賃銀の増減は如何であるか、日銀統計によると、(八月現在調指数) 昭和八年八五一、 昭和七年八八二、 昭和六年平均九一三、 昭和八年八月の賃銀指數は不景氣のどん底と言われた年よりも、六六だけ低いのである。之れ何を意味してゐるかと言へば、

一、重工業方面には、熟練工が足らなむと言つてゐるが事實はさうでなく、依然として失業者の数が減らなむ。

二、資本家は二度解雇したものを再び雇入る時には、以前の賃銀より少く、賃銀で雇入れ、殊に軍需工業では、臨時雇として雇入れ、そのために特に安賃銀で付らかせてゐるのである。が

更らに労働時間について以上の外から考へるならば、(軍需工業の治氣にかかわらず、賃銀が安く、それは失業の多きことにより)労働者は、永時間極度に労働を強要されてゐることとなる。

最近労働者の雇入につき体格検査を厳重にしてゐるのは労働強化に耐へ得る者を条件としてゐるのであつて、久留米市の日本足袋会社タイヤ工場では、身長五尺五寸以上、

体重三十貫以上の者でなければ採用せぬ。

類々の如く仕事にあり、いた労働者は、賃金と、永時間付らかぬ。

一方、製鉄、化学、炭坑等の重工業を除いた輕工業(製糸、織物等の如き)は何うかと言ふに、労働者農民一般大衆の購買力が増加し、益々経営困難となり、長野県に於ける製糸業は、米國の恐慌の打撃をうけて休業するに至り、其、他では久留米日本足袋工場は、新旧五月十五日間の休業をなし、而も休